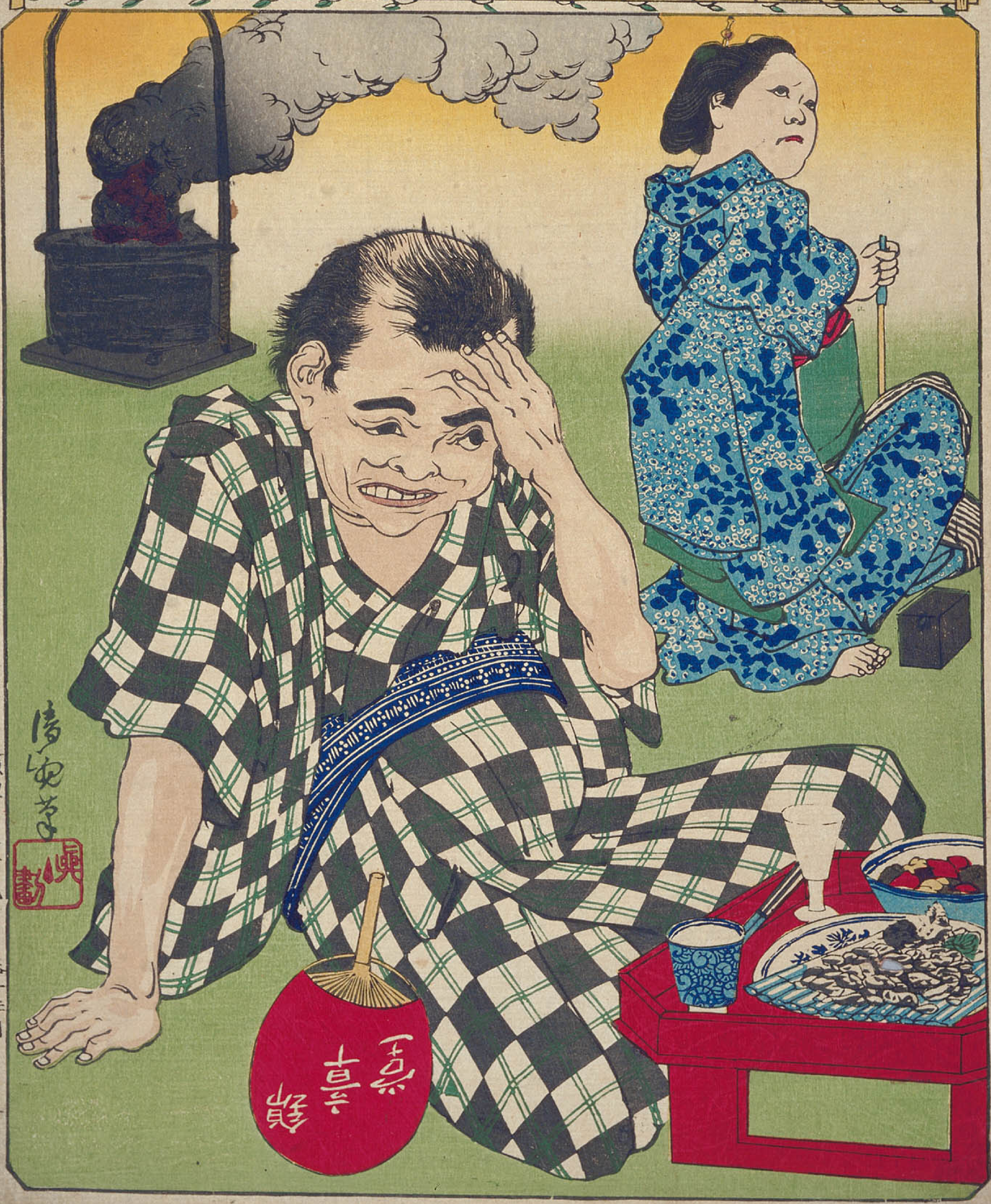
酒機嫌十二相之内

口小言を云て人に絡む酒癖

客「ヲヤ此奴ア大分拳の蔭で酒を ごハヽア解た其の新人が酒を飲ぬから私が皆引受て飲んだ酒の 勢か佐酔て有さうだト尻を受けて独言を言ながらスッパ／＼ト 飲んでハゲー／＼ 細君「ヲヤ旦那 あなたハ余ほどお酔でですね一 飲んざましこのゲーハ困るトゲー でも先刻おで飲んだ酒が悪い 銭も備へて出て来てゲーで此酒 のゲーでハあらぬ外殺来て来るゆゑ 其の下物てハ左様ゲーの性を付 下さりまセんトお内を少ゝ付け 細君ハムツトーして立ち退く お さんが出て来て都合よく喜利 おさんもアノあさじけあーの 其の山の神ハ何処へ行ツたの 「ヘー此奈一寸はをかり「ハヽー 然く園を切抜けさナ一体彼奴 ハ家内の取廻しハ口でも利かぬ がお客様ハろくにぬかんぞア久振 で一杯トすがふから何んな物を探 う出すうト思ヤアなんざ気恵 え薄ハ料像しく素麺ヨ夫と 云ふうちに至府を鉢り突き 鶏卵焼ござの上ズイト食残 と取らうか御座合トヨの蟹の さーみ位なものへヽその癖 新人への大の御馳走でありますト云ひ ふト話しゝト様に来らら客嚢 おろが好きでありさうなもんざ 小金掛けて掛けちやア失張り 機さかへ好サ

櫟川喜望



明治十八年五月御届
画工 芝源助町十八番地 小林清親
出板人 本町三丁目十八バンチ 小川彦計
彫勇

酒機嫌十二相之内　六種　文庫10-8349-1
早稲田大学図書館蔵／Waseda University Library